

|            |                      |            |          |          |     |
|------------|----------------------|------------|----------|----------|-----|
| 6-2        |                      |            |          |          |     |
| 主題         | 感染症集団感染ゼロを目指して       |            |          |          |     |
| 副題         | 意識づけに成功した健康プロモーション活動 |            |          |          |     |
| キーワード<br>1 | 感染症予防                | キーワード<br>2 | 健康への意識づけ | 研究(実践)期間 | 9ヶ月 |

|           |                                 |
|-----------|---------------------------------|
| 法人名・事業所名  | 社福) 仁生社 養護老人ホーム高砂園              |
| 発表者(職種)   | 倉持孝美(介護職員)                      |
| 共同研究(実践)者 | 関純子(介護職員)、中荃節子(介護職員)、吉田裕子(介護職員) |

|     |              |       |              |
|-----|--------------|-------|--------------|
| 電 話 | 03-3607-4060 | F A X | 03-3607-4654 |
|-----|--------------|-------|--------------|

|       |                                                                                                                                             |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業所紹介 | 高砂園は水元公園に程近く、水と緑に囲まれた閑静な環境にあります。<br>定員は140名、平均年齢81歳、要介護認定者は41名です。<br>複合サービスを持つ法人の利点を生かし入園者が安心して生活できるよう多職種の連携に努めています。自立支援、復帰への促進を処遇目標としています。 |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 《1. 研究(実践)前の状況と課題》

ここ数年、高砂園内において毎年のように2～4月にかけてインフルエンザや風邪による集団感染が発生し、感染蔓延防止のため、その都度、感染者や非感染者への対応に利用者や職員の肉体的及び精神的負担が発生している。

近年、腸内細菌が注目されており、腸内細菌のバランスが体調維持や健康管理に大きく影響することを踏まえ、加齢やストレスによりバランスが崩れた腸内細菌の乱れ、排便トラブルを整えるために、乳酸菌飲料を取り入れ検証した。

高砂園は、自立支援を目標とし、少しの見守りや声掛け、手助けがあれば日常生活に必要なことは、自分で出来る方が多く、外出も自由に行えることもあり、今まで利用者一人一人に感染症や健康への意識を高めることが難しくもあった。

そこで、感染症の蔓延を防止し、排便トラブルに伴う苦痛の軽減と健康への意識づけを定着させるためには、どうしたら良いか検討した。

### 《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

乳酸菌飲料を取り入れることで、腸内細菌のバランスが整い体調維持や喫食量、QOLの向上、感染症の蔓延防止、排便トラブルに伴う苦痛の軽減、健康への意識付けを期待して取り組んだ。その中でも感染症蔓延防止を最終目標に設定した。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

- ・利用者全員（130 名）を対象とし、朝食時に乳酸菌飲料を 1 日 1 本提供。
- ・平成 28 年 10 月から平成 29 年 3 月までの 6 ケ月間、飲用を継続。
- ・栄養教室を飲用開始前と飲用期間中で計 5 回開催し、感染症対策への意識付けを行う。
- ・飲用開始 1 週間前、開始後 3 か月、開始後 6 ケ月の各 1 週間において排便状況と喫食状況のヒアリングを実施し、飲用後の利用者の状態変化を観察。排便トラブルや QOL の変化、集団感染への影響を観察。
- ・感染症対策として手洗い、うがい、マスク着用の徹底、廊下・手すりの消毒、居室廊下に加湿器を設置して湿度を保つ。

### 《4. 取り組みの結果》

乳酸菌飲料を取り入れた結果として感染症蔓延を防ぐことが出来、特にインフルエンザ感染者が 1 名も発生しなかった。また、熱発者が数名出たが、長引くことなくすぐに回復した。感染症発生時には、各フロアでの食事の提供、感染者には居室配膳、外出の制限などと利用者にかかなりのストレスと QOL の低下もみられたが、今回は感染症が 1 件も発生せず、いつもと変わらない生活を保つ事が出来た。

下剤だけに頼ることなく、排便に対するトラブルが軽減された方もいた。

利用者自身が自分の健康に意識を持つことで今まで出来なかった手洗い、うがい、マスクの着用が周知され、感染症蔓延防止への意識が高まった。

### 《5. 考察、まとめ》

今回の取り組みの結果、インフルエンザ、ノロウイルスといった感染症の発生はなかった。喫食量、QOL の向上といった面では、目立った変化は見られず課題も残った。

今後も感染症予防と健康への意識づけとして、手洗い、うがい、マスクの着用、栄養教室、健康講座を継続していく。

### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

### 《7. 参考文献》

なし

### 《8. 提案とお発信》

乳酸菌飲料の取り入れをきっかけとして、利用者自身が健康への意識を高めることが出来、結果として、感染症の発症をゼロにおさえることが出来た。なによりも利用者ひとりひとりに、健康への意識を持ち続けてもらうことが、安定し自立した生活を送るためにも必要なのではないだろうか。